Panasonic

施工説明書

カメラ玄関子機とモニター親機の設置工事用

カメラ玄関子機（ドアホン）VL-V554L※　モニター親機（ドアホン親機）VL-MWD501KL

※VL-V554Lは、露出/埋込両用型です。

施工をされる方へ

■施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。**特に「安全上のご注意」は、施工前に必ずお読みください。**施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
■電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
■電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。
■施工終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。
■本書では、カメラ玄関子機を「ドアホン」、モニター親機を「ドアホン親機」と表記しています。

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⚠警告

火災・感電・漏電などを防ぐために

禁止

■ 分解・修理・改造しない
➔ 修理は販売店にご相談ください。

■ 雷のときは配線工事をしない

■ 指定以外の機器は接続しない

■ 指定以外の端子に電源(AC100 V)を接続しない

■ コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V以外での使用はしない
(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります)

■ 電源(AC100 V)を入れたまま配線工事をしない

■ ドアホン親機は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない

■ 電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない
• 傷つける、加工する、熱器具に近づける、コードに過度なストレスを加える(無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)
(傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります)
➔ 修理は販売店にご相談ください。

■ AC100 Vの電源直結工事は資格を持つ者が行う
➔ 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

■ チャイム線など既設の配線を利用する場合は、AC100 Vが通電されていないことを確認する
➔ 販売店へご相談ください。

事故やけがなどを防ぐために

禁止

■ 医療機器の近くでの設置や使用をしない※
• 手術室、集中治療室、CCU(冠状動脈疾患監視病室の略称)などには持ち込まない

■ 自動ドア、火災報知機などの自動制御機器の近くで設置や使用をしない※
(※本機からの電波が医療機器や自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります)

安全上のご注意　必ずお守りください

⚠注意

感電などを防ぐために

禁止

■ 土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない
(絶縁劣化により、感電の原因になることがあります)

■ 土中埋設配線する場合は、保護管を使用する

■ 屋外配線する場合は、雷サージ保護のため、避雷器を取り付けるか、保護管を使用して埋設配線する

けがなどを防ぐために

■落下しないようにしっかりと取り付ける
(落下により、破損やけがの原因になることがあります)
➔ 石こうボード、ALC(軽量気泡コンクリート)、コンクリートブロック、厚さ18 mm以下のベニヤ板など、強度の弱い壁は避け、指定の方法で取り付けてください。

付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

設置上のお願い

設置場所について

こんなところには設置しない　(故障や動作障害などの原因になります)

● 振動、衝撃のあるところ
● 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
● 反響の多いところ

ドアホンの設置について

● **底面の水抜き穴をふさいだり、北向きに設置すると結露しやすくなります。**
(ドアホン周囲の温度差によってドアホンのレンズカバーが結露し、映像が見えにくくなる場合がありますが故障ではありません)

● **逆光になる場所への設置は避けてください。**
(来訪者の顔が暗く映り、識別しにくくなります)

● **下図のように反響の多い場所では、「ピー」という音(ハウリング)が生じることがあります。**

● ドアホンの防塵・防水性はIP54※です。
(IEC60529/JIS C0920 防塵・防まつ形)
※ 防塵性規格等級5：
機器の所定動作および安全性を阻害する塵埃は入らないレベル
防水性規格等級4：
あらゆる方向からの飛まつによる水によっても有害な影響を及ぼさないレベル

● 背面に水などが直接かからないようにしてください。

設置上のお願い(つづき)

設置場所について(つづき)

ドアホン親機の設置について

● テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコン、給湯器リモコン(インターホン機能付き)、ホームセキュリティ関連装置の近くに設置しないでください。(故障や動作障害などの原因)
● CSデジタル放送受信機器(チューナー、チューナー内蔵のデジタルテレビ、レコーダーなど)の近くに設置しないでください。(CSデジタル放送の画像が乱れる原因)
• 受信機器から離して設置しても、特定チャンネルの画像が乱れる場合(☞ 取扱説明書169ページ)
● 本体の上下左右に20 cm以上の空間をとってください。また、壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。(誤動作や通話の途切れ防止)
● 本体を埋め込まないでください。
● ドアホンから5 m 以上離してください。
● ワイヤレス連動型用移報接点アダプタ「SH3290」で、火災警報器を接続するとき
➡ 移報接点アダプタと火災警報器から、それぞれ1 m以上離してください。
(近接すると、移報接点アダプタと火災警報器間の電波到達距離が短くなる場合があります)
● その他
• 本機は、1.9 GHz(ギガヘルツ)の周波数帯の電波を利用しています。電波についてのご注意など、取扱説明書11～13ページもよくお読みください。
• 強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。

工事について

● 電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。
(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
(2) 3 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
● 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線2線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値(直流ループ抵抗)を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値	DC500 V にて 1 MΩ 以上
線路抵抗値	直流抵抗計にてループ抵抗 10 Ω 以内(配線距離 100 m 以内で)

● 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
• 使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁(電源線とその他の信号配線材の間)を設ける。
• 金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
• 配線材はAC600 V以上の絶縁電線を使用する。
● ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。
(金属管は必ず大地アースをすること)
● AC100 V以上の電力線(電灯線)とは1 m以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。
● ドアホン親機の信号線接続端子は、速結端子になっているため以下の方法での結線を行う。
(接続できる線種などについては ☞「線種と配線距離について」)

配線材を挿入する場合
• 配線材の被ふくを9 mmむく。
• ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

配線材を抜く場合
• ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

● 誤配線、ショートなどがないことを確認後、ドアホン親機の電源を入れる。

既設(チャイム/ベル/ブザー/テレビドアホン/音声ドアホン)の配線を使用して本機を取り付けるとき

● **既設の配線に電源(AC100 V、24 Vなど)が接続されている可能性があるため、必ず電気工事士の資格を持つ方が工事をしてください。**(誤って接続すると故障の原因になります)
● **工事の際は、まず既設配線の電源を切り、配線材の線種と配線距離を確認してから配線してください。**
● 本書の「線種と配線距離について」の内容に合わない場合、正常に動作しないことがあります。
• 線種が ϕ 1.6 mmのときは、配線材を取り替える
• 線種が「より線」のときは、指定の方法で接続する(☞ 裏面「4ドアホン親機を取り付ける」の手順3)
● ドアホン親機とドアホン間に不要な配線材があるときは、取り除くか新たに配線してください。また、下記のように配線材を分岐したり、極端にばらしたりしないでください。正常に動作しないことがあります。

線種と配線距離について　(下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります)

配線区間	線　種	配線距離
ドアホン親機 ～ ドアホン	インターホン用平行 2 線式ケーブル 単芯線(mm)：ϕ0.65 ～ϕ0.8	100 m 以内
ドアホン親機 ～ JEM-Aアダプタ	単芯線(mm)：ϕ0.65 ～ϕ0.9	30 m 以内
ドアホン親機 ～ A 接点出力端子に接続可能な機器	ドアホン親機接続端子の許容線種 単芯線(mm)：ϕ0.65 ～ϕ0.8	接続する機器の仕様に従う
ドアホン親機 ～ 外部入力端子に接続可能な機器		50 m 以内

配線系統図

この配線系統図および「線種と配線距離について」に従って正しく配線してください。
● 接続できる機器の詳細(品番など)は、取扱説明書156～158ページをお読みください。

■ 火災警報器を接続するとき(火災警報器のタイプによって接続方法が異なります)

連動型の場合：移報接点アダプタが必要です

連動型
最大**14**台まで
(子器)　(親器)
移報接点アダプタ※5
SH2890
赤　白　青　青
13 14 外部入力

● **ドアホン親機に直接、連動型の火災警報器を接続しないでください。(故障の原因)**
● **移報接点アダプタとの配線時は、線の色を間違えないでください。(故障の原因)**

単独型(移報接点付き)の場合

単独型
並列接続で
最大**15**台まで
13 14 外部入力

● **単独型を複数台接続する場合も、外部入力端子への入線は、1 端子あたり 1 本にしてください。**

※1 JEM-Aアダプタに接続した機器を操作(ON/OFF)するには、設定が必要です。
設定のしかたは(☞ 取扱説明書105ページ)
※2 一般社団法人 日本電機工業会(JEMA)の標準HA端子をもつ端末機器を指します。
※3 ● **下記の定格に適応した機器を接続してください。並列接続はできません。**
(故障の原因になります)
• 定格負荷：AC、DC 24 V / 0.3 A 以下　• 最小適用負荷：DC 5 V / 1 mA
● A接点出力は、ドアホンやカメラ(別売)からの呼び出しに応答すると「OFF」、応答しないと約30秒間「ON」になります。
(動作の詳細は、接続機器の説明書をご覧ください)
※4 下記の定格に適応した機器を接続してください。
• 入力方式：無電圧メーク接点
• 検出確定時間：0.1秒以上
• 端子間短絡電流：5 mA以下
• 端子間開放電圧：DC 7 V以下
• 接点抵抗値：メーク時 500 Ω以下、ブレーク時 15 kΩ以上
※5 **ワイヤレス連動型の移報接点アダプタ「SH3290」を接続することもできます。**
• ドアホン親機と「SH3290」間は有線接続です。
•「SH3290」と、ワイヤレス連動型の火災警報器間は無線で連動します。
詳細は、「SH3290」の説明書をお読みください。

パナソニック システムネットワークス株式会社
〒812-8531　福岡市博多区美野島四丁目1番62号

PNQW4138ZA
PNQW4138ZA　N0114HH0
Printed in Vietnam

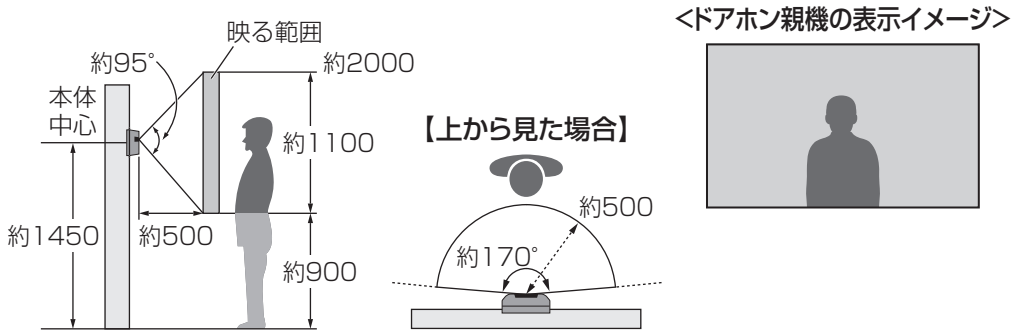
1 ドアホンの取り付け位置を決める

取り付け位置(高さ)とカメラに映る範囲

来客から呼び出されたとき(着信時)に撮影する範囲は、ドアホン親機の「ワイド/ズーム設定」でワイド/ズーム/全体表示のいずれかに設定できます。
(お買い上げ時の設定「ワイド」☞ 取扱説明書32ページ)

●下記は、標準位置(本体中心までの高さが約1450 mm)に設置する場合で、カメラから約500 mm離れた場合の数値です。(単位：mm)

ワイドのとき〈お買い上げ時〉

<ドアホン親機の表示イメージ>

ズームのとき

ワイドで映る範囲の一部を縦横約2倍に拡大表示します。

●デジタルズームのため、ワイドや全体表示に比べて画質が粗くなります。

<ドアホン親機の表示イメージ>

●ズーム時に映る範囲は、ドアホン親機の「ズーム位置設定」で任意の位置から選べます。下記を参考にドアホン親機で設定してください。(☞ 取扱説明書33ページ)

上下方向 / 左右方向(上から見た図)

【上】

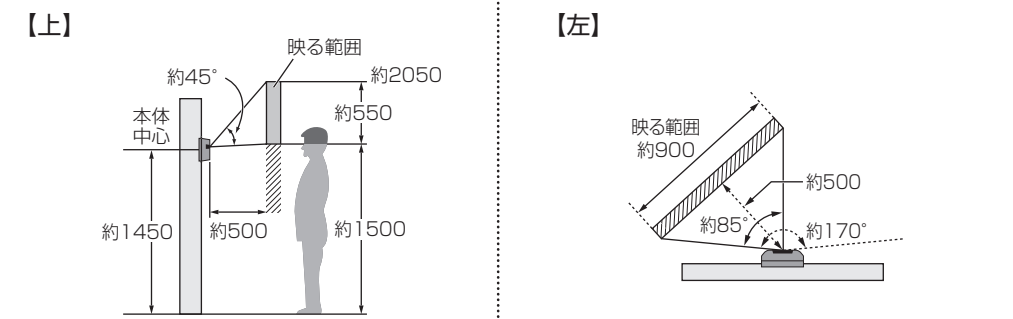
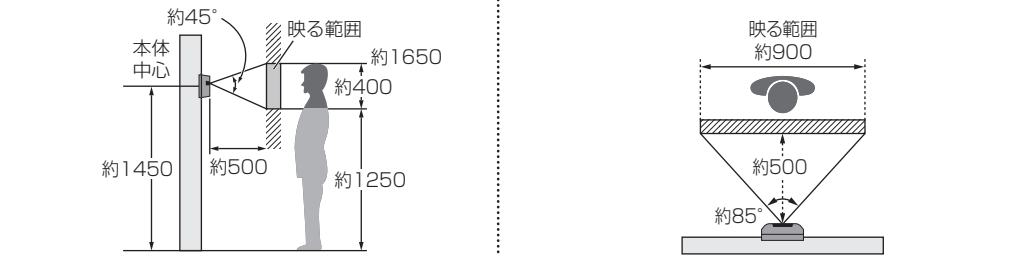
【左】

映る範囲 約900 約500 約85° 約170°

【中央】お買い上げ時

【中央】お買い上げ時

【下】

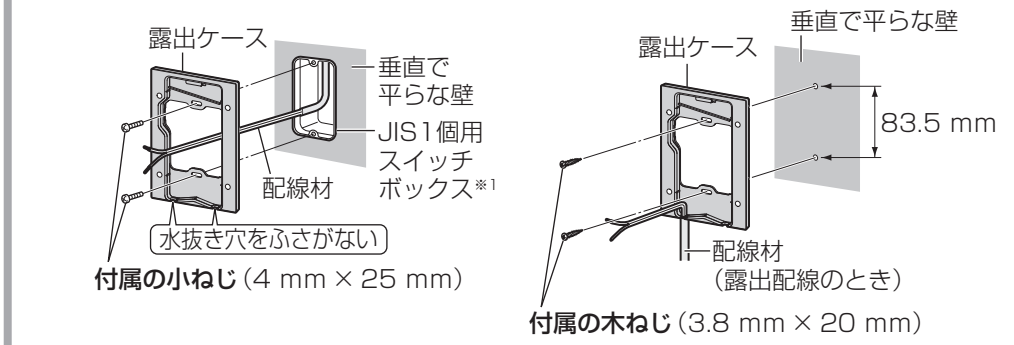
【右】

全体表示のとき

ワイドに比べて上下が少し広く映ります。

2 ドアホンを取り付ける

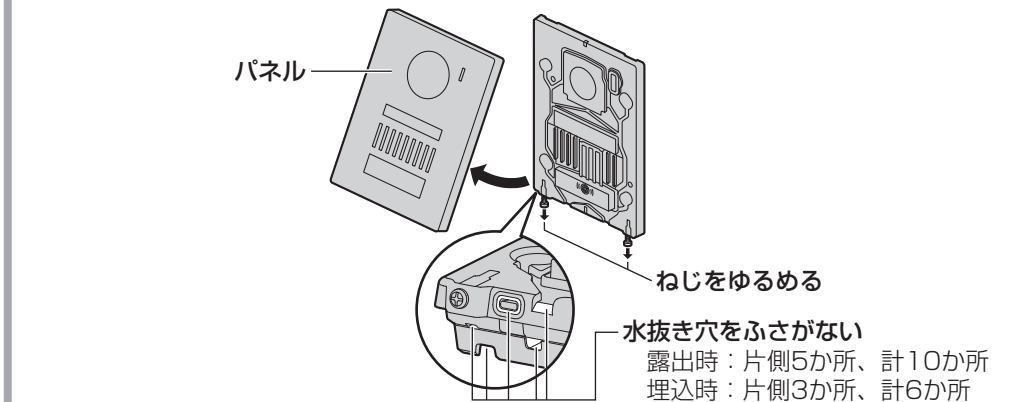
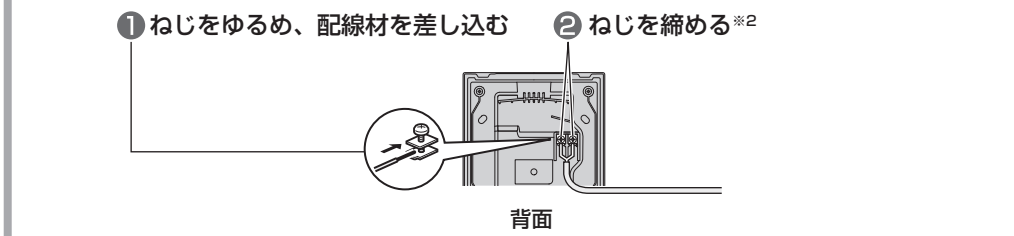
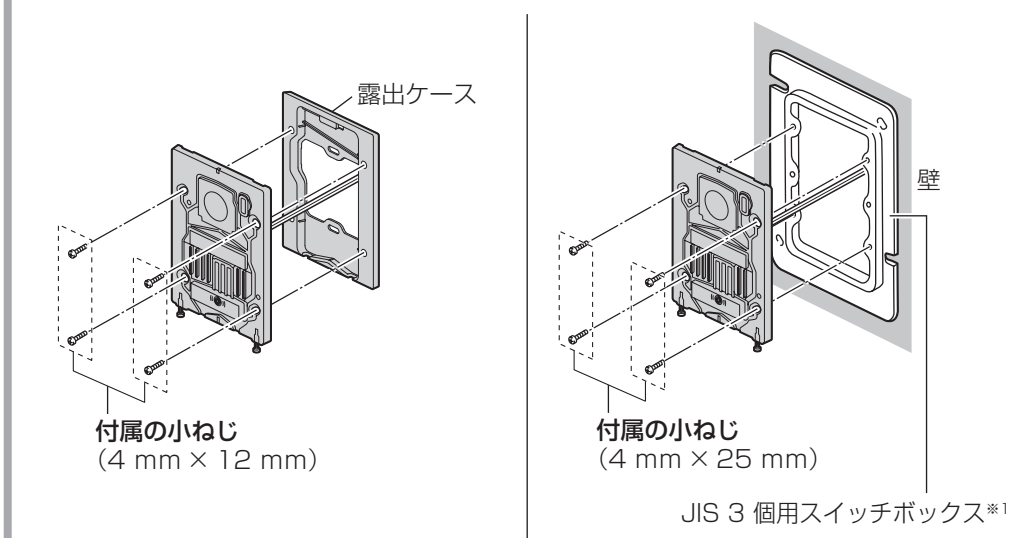
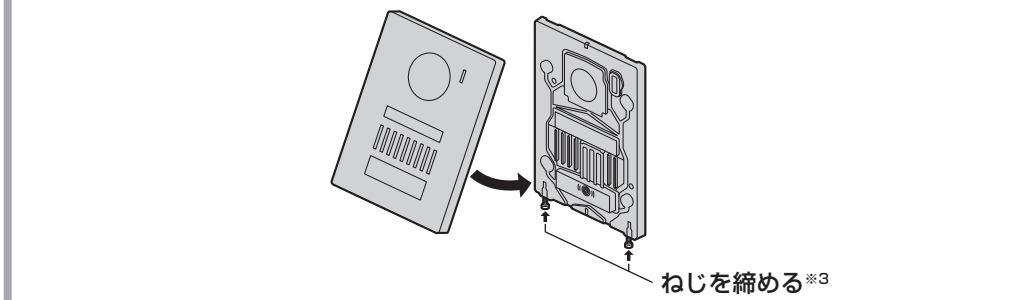
露出設置する場合	埋込設置する場合(手順2から始めてください)

1 露出ケースを壁面に確実に取り付ける(露出設置の場合のみ)

■ スイッチボックスの場合　■ 壁の場合

〈配線材について：既設の配線を使用する場合〉

●壁の中から出ている配線材が「3本線またはそれ以上」「直径1.6 mm以上の単線」「断面積1 mm以上のより線」のときは、電源線(AC100 V など)の可能性があります。工事は販売店にご相談ください。(電気工事士の資格がないと、電源工事はできません)

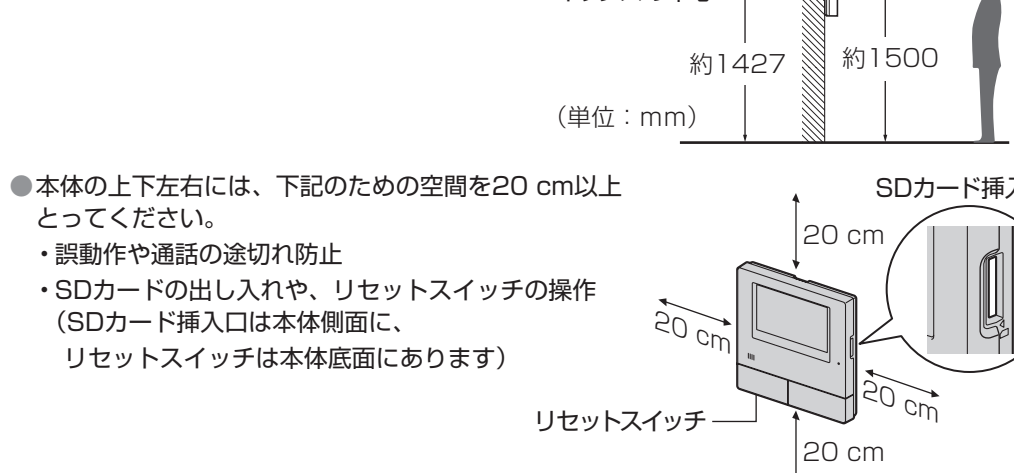
●電圧がかかっている配線材をドアホンに接続すると、機器が壊れます。

2 ねじをゆるめてパネルを外す

3 配線材を接続する

4 本体を取り付け、固定する

5 パネルを取り付け、ねじを締める

※1 底面に穴(スリット)がない場合は、水抜きのための穴を開けてください。
※2 電動ドライバーなどを使う場合は、ねじの破損防止のため、締め付けトルクを0.7 N・m(7 kgf・cm)以下に設定してから固定してください。
※3 電動ドライバーなどを使う場合は、ねじの破損防止のため、締め付けトルクを0.35 N・m(3.6 kgf・cm)以下に設定してから固定してください。

3 ドアホン親機の取り付け位置を決める

本体と壁掛け金具の取り付け位置

●本体は、よくご利用になる方の目の高さに画面の中心がくるよう取り付けてください。

(例) 床から約1500 mmの高さに画面の中心がくるように取り付けるとき

●本体の上下左右には、下記のための空間を20 cm以上とってください。
・誤動作や通話の途切れ防止
・SDカードの出し入れや、リセットスイッチの操作(SDカード挿入口は本体側面に、リセットスイッチは本体底面にあります)

●本体の取り付け位置が決まったら、壁掛け金具は右図の位置に取り付けてください。

AC100 V 電源線を直結する場合のみ
(電気工事士の資格がない方は、絶対に作業しないでください)

2 電源コードを取り外し、AC100 V電源線を接続する

〈ドアホン親機背面〉

❶ カバーを取り外す

❷ ドライバーの先などでボタンを押しながら、電源コードを取り外す

❸ AC100 V電源線を下記のように接続する
1. 被ふくを12 mmむく(線種φ1.6〜φ2.0単芯線)　12 mm　50 mm以上
2. ドライバーの先などでボタンを押しながら、奥まで差し込む
(AC100 V電源線接続端子断面図)

ねじ

⚠注意
奥まで確実に差し込む
差し込みが不完全な場合、発熱の原因になることがあります。

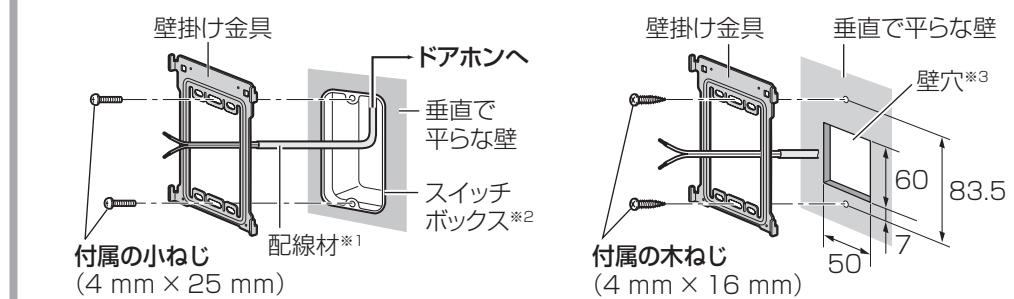
❹ カバーを取り付ける

〈電源線の処理について〉
取り付け時に壁掛け金具で挟み込まないように注意してください。
○ 電源コードカバーに沿って曲げる
× 下側で曲げない※(挟み込みの原因)

※このような状態で無理に壁掛け金具に取り付けないでください。

4 ドアホン親機を取り付ける

1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける

■ スイッチボックスの場合　■ 壁の場合　(単位：mm)

※1 〈既設の配線を使用する場合〉
●壁の中から出ている配線材が「3本線またはそれ以上」「直径1.6 mm以上の単線」「断面積1 mm以上のより線」のときは、電源線(AC100 V など)の可能性があります。工事は販売店にご相談ください。(電気工事士の資格がないと、電源工事はできません)
●電圧がかかっている配線材をドアホン親機に接続すると、機器が壊れます。

※2 JIS 1 個用スイッチボックス
電源線とその他の信号配線材などが混在する場合は、絶縁セパレーターを取り付けてください。

※3 スイッチボックスを使用せずに壁の中から配線する場合に、壁穴を開けてください。

■ パネル壁(石こうボード)の場合

壁に下図のように穴を開け、脱落を防止するため、右記のはさみ金具を使って取り付けてください。

はさみ金具：パナソニック(株)製

品番	対象壁
WN3996020 (20個入り)※	9 mm〜30 mm厚の石こうボード

※単品でのお取り扱いについては、販売店にお問い合わせください。

❶ はさみ金具を壁面の裏側に入れる

❷ Ⓐ部・Ⓑ部を図のように折り曲げ、はさみ金具を壁面に仮固定する

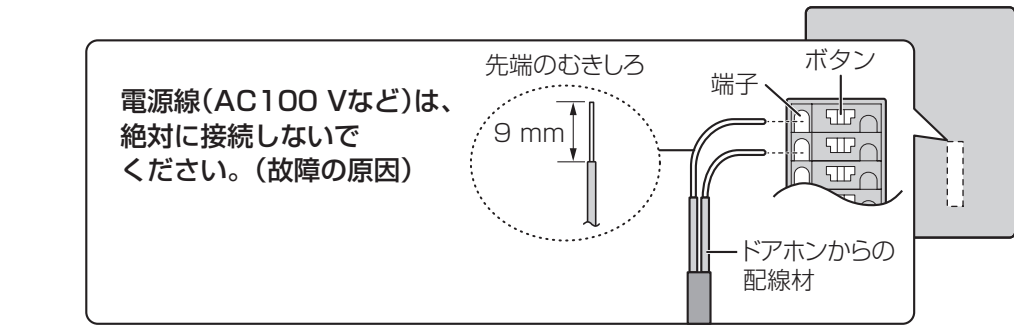
壁面 Ⓐ部 Ⓑ部

❸ 壁掛け金具とはさみ金具を、ねじで仮止めする

壁掛け金具 壁面 Ⓑ部 Ⓐ部 ねじ(はさみ金具に付属)

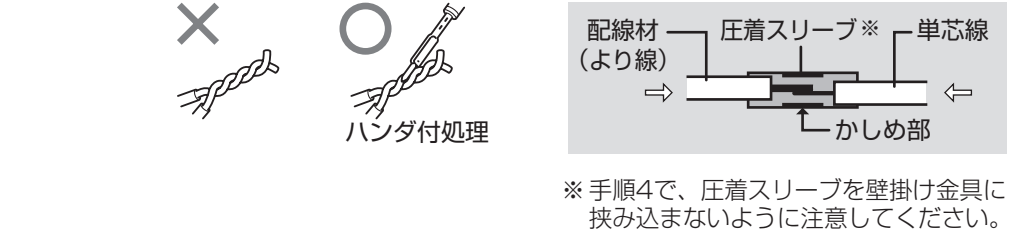
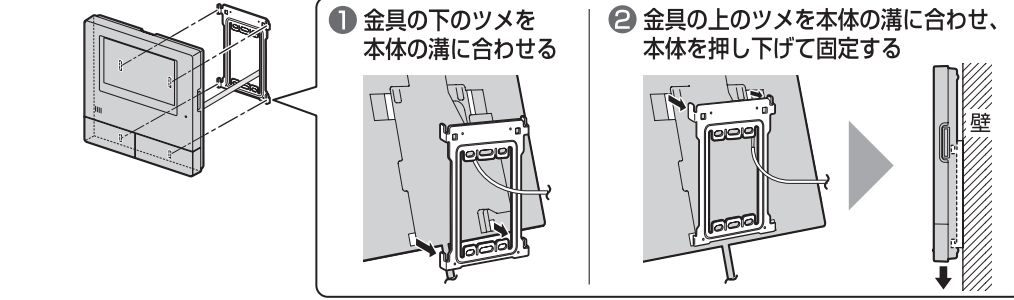
❹ Ⓐ部・Ⓑ部を壁端面まで戻し、ねじを締めて固定する
●Ⓐ部・Ⓑ部を、壁掛け金具と壁面に挟み込まないようにしてください。

3 配線材を接続する

● 配線系統図(☞ 表面)に従って正しく接続してください。
● 配線材は、各端子の横にあるボタンをドライバーの先などで押しながら抜き差ししてください。

配線材の線種が「より線」の場合

●単芯線と結線して使用する
結線部をハンダ付処理してテーピングで絶縁するか、市販の単芯線(50 mm以上)と圧着スリーブで圧着処理を行ってください。
(結線部をよじっただけでは、接触不良になるおそれがあります)

ハンダ付処理

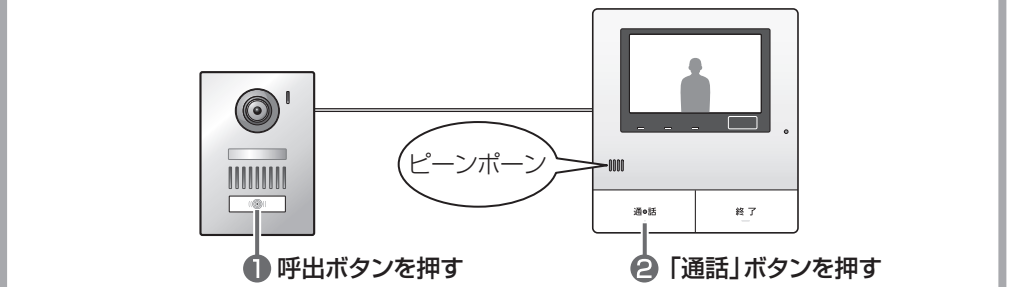
※ 手順4で、圧着スリーブを壁掛け金具に挟み込まないように注意してください。

4 ドアホン親機を取り付ける

5 [電源プラグで使用する場合のみ]
電源プラグのキャップを外して、コンセント(AC100 V)に差し込む

● 落雷による機器の故障を防止するために、雷サージ防止付きのコンセント(市販品)に差し込むことをお勧めします。

5 正しく動作するか確認する

取り付け・接続後、正しく配線できているか下記の手順で動作を確認してください。

❶ ドアホンの呼出ボタンを押し、ドアホン親機で呼出音が鳴り、映像が映ることを確認する

❷ ドアホン親機の「通話」ボタンを押し、ドアホンと通話できることを確認する
● 確認が終わったら、ドアホン親機の「終了」ボタンを押す

ドアホン親機が動作しないとき

正しく配線されていない可能性があります。次のことを確認してください。

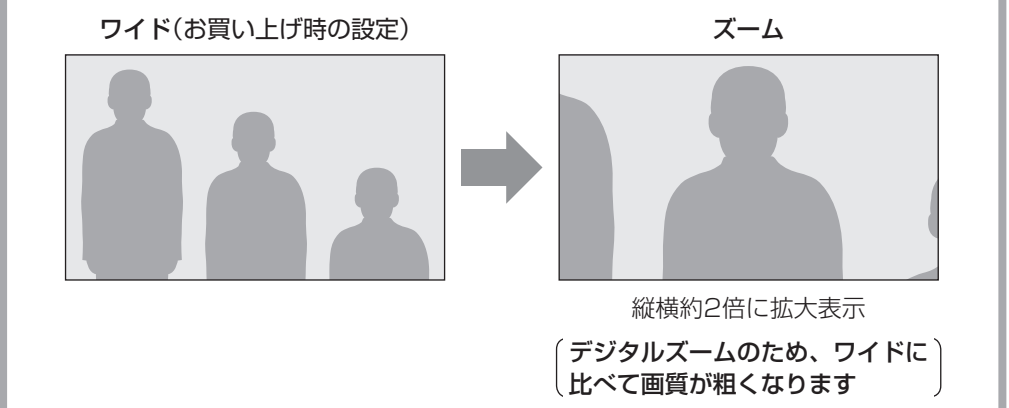
● ドアホン側、ドアホン親機側の端子に、それぞれ配線材が確実に接続されていますか？
● 正しく接続したのにドアホン親機が鳴らない場合、壁内での配線に異常がある可能性があります。下記の手順で、確認してください。
①いったんドアホンを外してドアホン親機の近くに持っていく
②短い配線材などを使って右図のように直接つなぐ
③再度、動作を確認する
➡ 正常に動作すれば、壁内の配線に問題があります。配線を確認してください。

6 ズームに設定して使いたいとき

ドアホンからの呼び出し映像を「ズーム」で表示するようにしたいときは、ドアホン親機で下記の設定をしてください。

「ワイド/ズーム設定」を「ズーム」に変更する

● 設定のしかたは ☞ 取扱説明書32ページ

縦横約2倍に拡大表示
(デジタルズームのため、ワイドに比べて画質が粗くなります)

「ズーム位置設定」でズーム位置を決める

● 設定のしかたは ☞ 取扱説明書33ページ

ズーム位置

中央(お買い上げ時)

映る範囲(ズーム位置)を、任意の位置から選んで設定します